

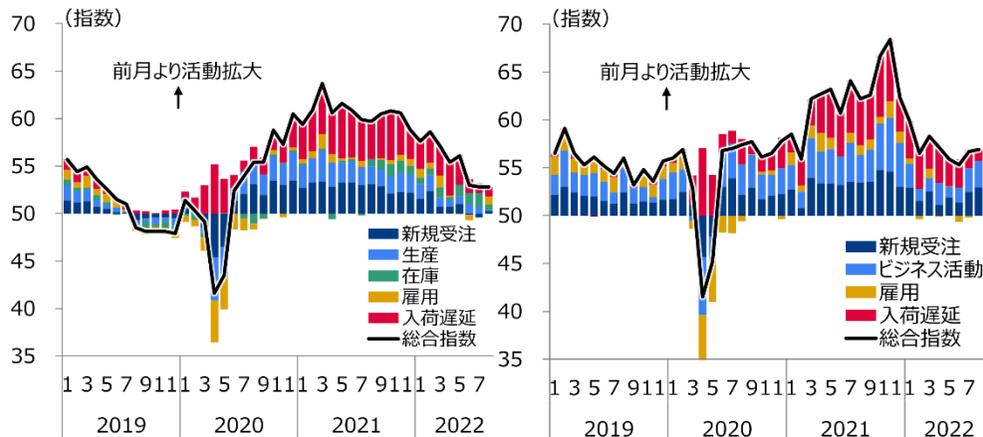
米国

ISM景況指数（2022年8月）

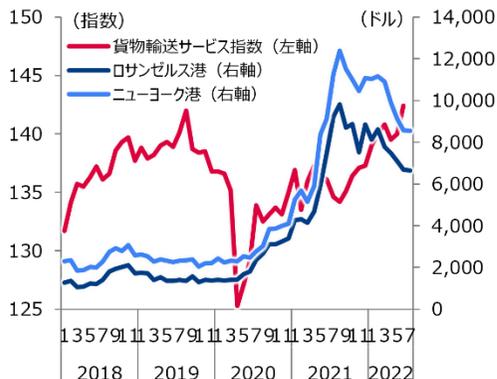
底堅い米国景気、供給制約・インフレ圧力の緩和傾向が続く

政策・経済センター
浅井優汰
03-6858-2717

1 ISM景況指数（左：製造業、右：非製造業）

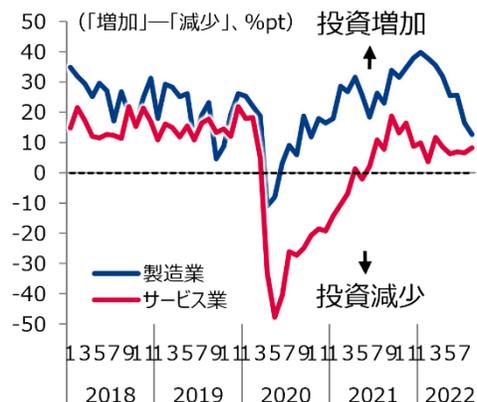


注：調査項目について、前月と比べ「改善・変化なし・悪化」の3択で行った企業アンケート結果を加重平均して算出。
出所：Institute for Supply Management® より三菱総合研究所作成

2 貨物輸送サービス指数と
中国発米国向けコンテナ輸送費

注：貨物輸送サービス指数は6月までの数値。コンテナ輸送費はどちらも20フィートコンテナ、上海発。
出所：Bureau of Transportation Statistics、日本海事センターより三菱総合研究所作成

3 企業の設備投資見通し



注：数値はニューヨーク連銀地区における企業の6カ月先の見通しを示す。
出所：ニューヨーク連銀より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 22年8月のISM製造業景況指数は52.8と前月比で横ばいとなった（図表1）。市場予想の52.0への低下に反し、3か月ぶりに下げ止まった。非製造業は56.9と2か月連続で小幅上昇し、市場予想の55.0を大きく上回る高水準を維持した。
- 製造業の項目別では、新規受注が51.3、雇用が54.2と50台を回復し需要の底堅さを示した。入荷遅延は55.1と4か月連続で低下し、供給制約の緩和が続いている。構成項目ではないが、仕入価格は52.5と5か月連続で低下しており、インフレ圧力が緩和傾向にあることを示す結果となった。
- 非製造業の項目別では、新規受注が61.8、ビジネス活動が60.9と両項目とも伸び幅は鈍化したものの、先月に引き続き上昇し全体を押し上げた。入荷遅延は54.5と20年2月以来の低水準となり、供給網混乱の緩和が示された。

基調判断と今後の流れ

- インフレ高止まりで利上げ継続が予想され、景気後退への懸念があるが、米国企業の活動は拡大を続けている。製造業・非製造業ともに、需要の強さを示す新規受注・雇用が先月から拡大し、米国景気の底堅さが目立つ結果となった。
- ISM入荷遅延指数は製造業・非製造業ともに低下を続けており、供給制約は依然として強いものの、改善に向かっている。背景には物流制約の緩和がある。米国内の貨物輸送活動量を示す貨物輸送サービス指数は、22年入り後にコロナ危機前を上回る水準で推移している（図表2）。
- また、中国発米国向け海上コンテナ輸送費は1年前のピーク時から約3割低下した。コロナ前の4倍程度の高水準で推移しており、正常化には時間を要するが、供給網混乱の緩和は輸入コストの低下を通じてインフレ抑制に寄与するだろう。
- 先行きについて、FRBの積極的な利上げが押し下げ要因となり、企業活動の増勢は段階的に鈍化すると見込む。実際、企業の設備投資見通しは製造業・サービス業ともに1年前から低下基調を示し、低水準で推移している（図表3）。